

彩の国男声コーラスフェスティバル

9月24日(日)響きの森 桶川市民ホール(埼玉)において、彩の国男声コーラスフェスティバルが開かれました。講師に指揮者・武田雅博先生、埼玉県連顧問・浅井一郎先生をお迎えしました。出場14団体、神奈川と茨城からも参加がありました。13時開演、オープニングでは、定番の「いざ起て戦人よ」から「ふるさと」「斎太郎節」「秋のピエロ」を全員客席で歌い、盛り上がったところで各団の演奏に入りました。

高校生中心のフェスティバル合唱団

公募のフェスティバル合唱団は「言葉は」(谷川俊太郎作詩、信長貴富作曲)、「酒頌」(W.B.イェーツ作詩、林望訳詩、上田真樹作曲)を武田先生の指揮で演奏しました。午前中、武田先生の講習を受けましたが、高校生の若いしなやかな声に刺激され高齢者も楽しく歌い切り、大きな拍手と声援を受けました。



新型コロナウイルス感染症は2類相当から5類に変更されたが、依然として感染は収まったとはいえず、おまけにインフルエンザも流行している状況です。残念ながら1団体が欠場となり、出場できてもメンバーが欠けてしまった団体も散見されました。

もっともユルイ男フェス!

彩の国男フェスは1990年8月、埼玉県連が暑気払いの乗りで川口のサッポロビール工場講堂を借り「おとうさんコーラス大会」と称してスタートさせたのがそもそもの始まりです。全国で初めての男声合唱大会となりました。その後、紆余曲折を経て現在の「彩の国男声コーラスフェスティバル」へと発展しましたが、発足の経緯からしてもあくまでどこかビアパーティの精神が流れていて、運営もその場の盛り上がりで変



幻自在です。全体合唱のソリストもその場で募ります。我こそはと手が上がる場合もありますが、そうでないときは周りに指名してもらい、半ば強制的に歌ってもらいました。(;)



懇親会場がとれず居酒屋で合同打上げ

会場の桶川市民ホールにある多目的スペースを使っでの懇親会は許可されず、周囲を当たったものの適当な場所が見つかりませんでした。大会直前になってようやく探し出したのが桶川駅前の居酒屋庄やでした。仕切りがあって見通しはあまりよくありませんが苦肉の策です。合同打上げは県連ではなく男声合唱プロジェクトYARO会が主催しました。参加者が想定よりはるかに下回り57人しか集まらず貸し切りとはなりませんでしたが、店長に掛け合って歌う許可をもらいました。



来年も同じ桶川市民ホールで開催します。つぎこそ懇親会もしっかりやります…。

(加藤記：フェスティバル司会を連沼常務理事とともに担当しました。)